

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット4階)

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成29年5月12日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者に対し尊敬の意を持ち、受け入れる事」が介護支援の根本と考え、介護スタッフにおいては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」を念頭におき、笑顔で心穏やかに。時には思いを打ち明け一緒に涙できる環境作りをめざし、利用者主体の介護を行う努力を日々重ねております。事業にあたっては地域住民との関係性の向上、平成26年度より始動しております「かぎ預かり事業」の協力施設として地域の見守り活動にも力を入れ、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の方々が在宅での生活を可能な限り続けられるよう、地域包括支援センター、他事業所と連携を図り情報交換・情報共有に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と実践の心得を、1階玄関と事務所に掲げており出勤時に再確認し、仕事をする様に心掛けています。又、会議の際にも、定期的に確認する様にしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物に参加したり、子供会が訪問して下さったり地域の方と一緒に消防訓練を行ったりしています。又、散歩の際には挨拶を交わし、顔見知りの関係になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議の際に、施設の現状や入居者様の認知症についての話しをし、地域の方にも理解して頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的実施し、入居者様や 家族様、地域の方々からの意見を参考に、より良いケアを実践し積極的に取り組むようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設に、緊急措置や生活保護の入居者の方もおられ、市町村担当者と密に連絡を取り合い協力関係を築く様に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り、勉強会を実施し理解に努め、身体拘束をしないケアを行なっています。入居者様の安全を守る為、EVと窓の施錠は行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行ない、フロア会議の際にも確認、話し合いをしています。スタッフ間でも言葉遣いや、介助面でも注意し合い防止できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他フロアに成年後見人制度を利用されている入居者様もおられ、詳しく学ぶために勉強会を行ない皆で理解できる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書・看取り契約書等を理解、納得して頂けるまでわかりやすく説明を行う様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様が、意見や要望を言いやすい環境を作り頂いた意見や要望を職員間で共有できる様に取り組んでいます。又、運営推進会議の時などに外部者へ表せるようにし反映させる様に取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務に関する意見や提案等をスタッフ全員が言いやすい環境になれる様に心掛けています。毎月、フロア会議の際にも意見を聞く機会を設け反映できる様に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持って働ける様な環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験や新人スタッフに対して、担当指導者をつけ、丁寧に指導し個々のスキルを把握していただけるようになるまで指導する様にしています。又、毎月勉強会を実施したり、外部研修に参加したりとスキルの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修にも参加し、同業者の方との交流を行ないサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け安心して過ごして頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や、不安な事、要望に耳を傾け、話しやすい環境をつくり、入居者様を安心して預けて頂ける様な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様が必要としている支援を見極め、可能な範囲で対応を行なっています。又要望があればその都度対応を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や身体状態を考慮し、その方に合った手伝い等をして頂き、共に生活している事を実感して頂ける様に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、現状報告や説明を行ない又、入居者様とご家族様の絆も大切にし、共に入居者様を支えて頂ける様な関係を築ける様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきた馴染みの人や場所に関して可能な範囲で関係を維持し、途切れない様に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように、スタッフが間に入り関係を取り持ち、入居者様同士が関わりを持って、支えあえる様な支援になる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方でも、お会いした際には挨拶や話しをし、相談があった場合は、しっかりと支援を行なう様に努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活習慣を把握し可能な範囲で、その方の希望を受け入れるようにしています。困難な場合は、ご本人に説明し代替え案を提案し納得して頂ける様に検討し実施する様にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から情報収集を行い、その方のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態に応じて、日課やレクリエーションをして頂いたり、体調を考慮し、その人らしい1日を過ごして頂く様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて、ケアカンファレンスを行い、より良く暮らすための課題やケアのあり方について話し合い、ご本人・ご家族の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成する様に取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残し職員間で情報を共有し会議やその都度話し合いを行ない、より良いケアを実践し、介護計画の見直しに活かせる様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階には整骨院、2階にはジムが併設されており整骨院は、希望されている方が利用されています。ジムでは、火曜日と木曜日に体操やスポーツレクを行なっています。必要な方には、リハビリやマッサージも取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加したり、近隣の公園や神社への散歩、又コンビニに買い物に行ったりと、外に出る機会を作るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院から月1回集団往診と月1回 個人往診と訪問があります。特変等あれば、主治医に連絡をし指示のもと、速やかに受診する等の対応をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の特変時には、訪問看護師に状況報告を行ない指示のもと対応しています。また、日々の状態の報告・相談をこまめに行い、より良い介護を行なえる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携している病院がいくつかあり、その中からかかりつけの病院を把握し、入院の際には安心して治療できる様に情報提供を行なっています。退院の際には、看護サマリーや医療情報を頂く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては看取り契約書を入所時に方針等の説明のうえ、同意書を得ています。主治医の指示のもと、看護師・職員が治療支援に取り組み、共有しています。方針が変更になった場合は主治医・ご家族と話し合いをし、より良い支援ができる様に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時に備えて定期的に勉強会を行ったり、会議の際に対応方法の確認を行ったり、看護師からの指導やマニュアルを確認し実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施しており全職員が避難誘導について認識できるようにし、マニュアルもしっかりと頭に入れておくよう指導する様に努めています。また、地域との協力体制を築く為にも合同での消防訓練も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意し入居者様の誇りやプライバシーを損ねないように尊敬の心を持って優しく丁寧な言葉かけができる様に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の意思のもと行動して頂き、体調面も考慮しながら自己決定して頂ける様な対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調を考慮し、個々にあったペースで過ごして頂ける様に取り組んでおり可能な範囲で希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問美容の方に来て頂きカットを実施しています。毛染めをされる方もおられます。外出時や行事の際には、ご自身でお気に入りの色合いの服を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に、テーブルを拭いて頂いたり、食後に下膳して頂き、洗った食器を拭いて頂いたりしています。お米を洗って頂くこともあります。また、誕生日の際には食べたい物を聞き、メニューに取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握しています。ミキサー食や、刻み食の方には、体調や食材に応じて、その都度調整しています。食欲のない方には、カロリーのある物を、その都度提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問の歯科往診があり、希望者には重点的に口腔ケア・チェックをして頂いています。毎食後、口腔ケアを実施し、うがいの出来ない方には、口腔ティッシュを使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあった排泄パターンや習慣を把握し、その日の状態を考慮しながら、声掛けやトイレ誘導を実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方にはヨーグルトや、食物繊維の多い野菜を食べて頂いたり、水分を多めに飲んで頂いたり、それぞれの状況に応じた予防と対策をしています。また、運動を促すようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施していますが、体調等により調整しています。体調に合わせて、足浴やシャワー浴、清拭を実施しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時には、個々のペースに合わせて就寝して頂くようにしています。また、入居者様の体調により傾眠時には臥床し、ゆっくりと過ごして頂ける様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容や、容量は、処方箋にて確認する様に指導しています。服薬ミスがないように服薬の際には、明記されている名前、日付を声に出して再確認しています。また、他スタッフにも服薬前に確認してもらっています。症状の効果や変化にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・書道・太極拳等のレクリエーションを定期的実施し楽しんで頂ける様に支援しています。日曜日には、入居者様と一緒に、たこ焼き・ホットケーキ・おはぎ等手作りおやつをし、楽しんで頂ける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期に、近所の公園に散歩に行ったりコンビニへ、おやつや朝食の材料を買いに行ったりしています。季節感を味わって頂ける様、春は、お花見、夏は、夏祭り、秋は、外出援助、冬は、クリスマス、元旦には神社へ初詣に出掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際にはレジで一緒に支払いをして頂いたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話して頂くようにしています。家族様や知人の方への暑中はがきや年賀状等を書いて頂き、投函する等の支援を行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに行事ごとの写真や入居者様と一緒に作った季節のカレンダーや作品を飾り、季節感を味わって頂ける様にしています。また、入居者様が快適に過ごせる様に家具の位置も配慮し、共有のくつろぎスペースを作るようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごして頂ける様にソファやリクライニングチェアを設置しています。入居者の方が思い思いに好きな場所で気の合った方と話しをし過ごして頂ける様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を持参されたり、使い慣れた物を居室に置き、自分の部屋である事を認識し、居心地よく過ごして頂ける様に工夫をし対応しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の居室入り口の扉には、ご自身の居室が認識出来る様な表示をしたり、トイレや浴室等にも表示し認識して頂ける様にしています。		